

23:13 バラクは彼に言った。「では、私と一緒に彼らを見ることが出来る別の場所へ行ってください。その一部を見るだけで、全体を見ることはできませんが。そこから私のために彼らに呪いをかけてください。」

23:14 バラクはバラムを、セデ・ツォフィムのピスガの頂に連れて行き、そこで七つの祭壇を築き、どの祭壇にも雄牛一頭と雄羊一匹を献げた。

23:15 バラムはバラクに言った。「あなたはここで、自分の全焼のささげ物のそばに立っててください。私はあちらで主にお会いします。」

23:16 【主】はバラムに会い、その口にことばを置き、そして言われた。「バラクのところに帰って、こう告げなければならない。」

23:17 それで、彼はバラクのところに帰った。すると、彼はモアブの長たちと一緒に、自分の全焼のささげ物のそばに立っていた。バラクは言った。「【主】は何をお告げになりましたか。」

23:18 バラムは彼の詩のことばを口にして言った。「立て、バラクよ。そして聞け。私に耳を傾けよ。ツィポルの子よ。」

23:19 神は人ではないから、偽りを言うことがない。人の子ではないから、悔いることがない。神が仰せられたら、実行されないだろうか。語られたら、成し遂げられないだろうか。

23:20 見よ、私は、祝福せよとの命を受けた。神が祝福されたのだ。私はそれをくつがえすことはできない。

23:21 ヤコブの中に不法は見出されず、イス

ラエルの中に邪悪さは見られない。彼らの神、【主】は彼らとともにおられ、王をたたえる声が彼らの中にある。

23:22 彼らをエジプトから導き出された神は、彼らにとって野牛の角のようだ。

23:23 まことに、ヤコブのうちにまじらないはなく、イスラエルのうちに占いはない。神が何をなさるか、時に応じてヤコブに、すなわちイスラエルに告げられる。

23:24 見よ、一つの民を。それは雌獅子のように起き上がり、雄獅子のように身を持ち上げ、休むことはない。獲物を食らい、殺されたものの血を飲むまでは。」

23:25 バラクはバラムに言った。「彼らに呪いをかけることも祝福することも、決してしないでください。」

23:26 バラムはバラクに答えた。「私は、【主】が告げられることはみな、しなければならぬ、とあなたに言ったではありませんか。」

23:27 バラクはバラムに言った。「では、私はあなたを、もう一つ別の場所へ連れて行きましょう。もしかしたら、それが神の御目にかなって、あなたは私のために、そこから彼らに呪いをかけることができるかもしれません。」

23:28 バラクはバラムを、荒れ野を見下ろすペオルの頂上に連れて行った。

23:29 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、七頭の雄牛と七匹の雄羊をここに用意してください。」

23:30 バラクはバラムが言ったとおりにして、祭壇に雄牛と雄羊を献げた。

ると思っていました。御心が示されているのに、なかなか従えない人の姿も同じようなものです。

またバラムは早くこの呪いの占いから身を引くべきでしたが、やめようとしませんでした。彼は真理を語っていたのに、行動が伴わなかったのです。なかなか救いに至らない人の例がここに 있습니다。一方私たちも、バラムのように間違いから抜け出さないでいることはないでしょうか。

バラムは一見、神のことばを忠実に伝えている信仰者のようですが、実際の目的は自分のためであり、王バラクのために続けていたのです。自己中心の不信仰が、信仰的に見える行動の中に隠れてはいないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

王バラクは場所を変えれば、占いの結果が変わ

